

平成24年10月8日(月)

産経新聞

号外

産業経済新聞(サンケイ)  
THE SANKEI SHIMBUN

発行所 ©産業経済新聞東京本社2012

〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2

☎東京(03)3231-7111 (大代表)



# 山中氏にノーベル賞

## 医学・生理学

# iPS細胞を開発

スウェーデンのカロリンスカ研究所は8日、2012年のノーベル医学・生理学賞を、あらゆる細胞に分化する能力があるiPS細胞(人工多能性幹細胞)を開発した京都大の山中伸弥教授(50)と英ケンブリッジ大のジョン・ガードン教授の2氏に授与すると発表した。患者自身の細胞を移植して病気の道を開いた功績が評価された。

日本人のノーベル賞受賞は2年ぶりで、米国籍の南部陽一郎氏を含め計19人。医学・生理学賞は1987年の利根川進氏以来、2人目の快挙となった。iPS細胞は、あらゆる細胞に分化する能力を持つ万能細胞の一種。これを基に神経や肝臓、心臓などの細胞を作製し、病気や事故で機能を失った患者の臓器などに移植することで、難治疾患を治療する再生医療の実現が期待されている。研究はまだ安全性評価の段階で、実際に患者に使われたケースはない。医療分野のノーベル賞は広く実用化した段階で授与されるのが通例で、極めて異例のスピード受賞となった。山中氏は平成18年、マウスの皮膚細胞に4つの遺伝子を導入することで世界で初めてiPS細胞の作製に成功。19年には同じ手法でヒトの皮膚から作製することにも成功し、世界の第一人者として研究開発をリードしている。授賞式は12月10日にストックホルムで行われ、賞金計800万スウェーデン圉(約9500万円)が贈られる。



産経新聞 購読のお申し込みは ☎0120-34-4646

MSN産経ニュース <http://sankei.jp.msn.com>